



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601S		
科目名	基礎ゼミ		
担当教員	田上 雄大		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	1311	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP4-F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP8-M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 F1 探究と論拠（25%） E1 学識・専門技能（15%） H1 論理的思考（15%） I3 情報分析（15%） K1 ライティング・コミュニケーション（15%） B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） M1 総合的・応用的学修（5%）		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージと対応 2進行情～3発展期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する多様な研究分野の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するために必要な、危機管理学に関する基礎的な演習を行います。専門基幹科目における法学系科目や専門展開科目		

	における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ、情報セキュリティの各領域の危機管理系科目を担当する 教員が、それぞれの研究分野における研究の手法について指導します。ここでの学びが、2年次後期からのゼミナールでのより専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本演習では、危機管理上の諸問題の背景や原因の特定からはじめて、その解決に向けた研究計画の立案、集团的な研究の遂行や、その成果のプレゼンテーションによる表現までを一通り行うことを目標にします。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し	
授業の趣旨	■副題 資料の作成や見方を学びます。 ■授業の目的 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 将来のキャリアを見据えた学びにおいて、①自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、②倫理観と公共心、③省察力の各観点について自覚を持継ことを心がけよう。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求することができる。 ・問題意識を持つことができる。(第3回、第4回) ・問題点について文章で表現できる(第5回～第10回) ・問題点について自らの見解を持つことができる(第5回～第10回) ■科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すことができる。 ・法律の解釈や基礎概念を説明することができる。(第2回) ■成果を適切に表現することができる。 ・人に伝える表現ができる。(第12回～第14回) ・自らの見解を伝える知識・技能が修得できる(第11回) ・コミュニケーションをとることができる(第12回～第14回) ・自分たちの成果を人に伝えることができる(第15回)	
成績評価方法	成績評価手段 実技・パフォーマンス各自2回(50%)：適用ルーブリック：E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1 (評価方法) 資料を要約し、その論題の内容を理解し、状況や文章構造を把握できているか、その問題に対して自らの見解を持ち、いかに内容を展開させていくか、現実的な視点をもって分析し、他者との議論を通じて自らの見解を確立できているか評価します。 (フィードバック) 授業時間内に指摘し、問題点をその都度解説します。 授業参加度15回(50%)：適用ルーブリック：E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1 (評価方法) 他者の発表内容を通じてまず自らの資料を読んだうえで知識を習得し、発表担当者は資料の知識を活用しているか、またその結論が妥当であるかどうか、対立点の発見や解消、最適化を議論を通じてなされているか、評価します。他者の発表は自分には関係ないという姿勢ではなく、全員で内容について検討し、議論しているか、評価します。 (フィードバック) 授業の最後に各自が適切に参加できていたか、議論できていたか講評します。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 (ガイダンス) 資料の使い方、参照・引用の意味などを理解すること目的とします。 (イントロダクション) テキストの内容紹介、これまで学んだことの確認(E1) ③予習(60分) インターネットにかかわる近年の事件を概観する。

	④復習（60分） 授業を振り返り、知識の確認、基礎ゼミの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。
2	①授業テーマ レジュメの作り方。 ②授業概要 1年生のときに習得した知識を確認します。資料を見ながら、その性質を分析し、皆で討論します（E1・H1・M1）。 また、レジュメの作り方について理解してもらいます（K1・F1）。 ③予習（60分） 事前に配布した資料を確認する。 ④復習（60分） 取り扱った事例を再確認し、法解釈について確認する。
3	①授業テーマ テキスト輪読① ②授業概要 教科書のなかからテーマを指定し、レジュメを作成することで知識を整理し、内容の構造を理解してもらいます（F1・E1・H1・C1）。 ③予習（60分） 教科書の中から指定したテーマについて理解する。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
4	①授業テーマ テキスト輪読② ②授業概要 教科書のなかからテーマを指定し、レジュメを作成することで知識を整理し、内容の構造を理解してもらいます（F1・E1・H1・C1）。 ③予習（60分） 教科書の中から指定したテーマについて理解する。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
5	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表① ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することで的確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成すること。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
6	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表② ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することで的確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成すること。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
7	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表③ ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することで的確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。

	③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成すること。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
8	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表④ ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することでの確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成すること。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
9	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表⑤ ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することでの確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成する。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
10	①授業テーマ レジュメの作成と個人発表⑥ ②授業概要 教科書のなかから項目を選び、詳細を理解し、そこに問題提起や自らの見解を加えてレジュメにまとめ、発表してもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。発表者以外は、教科書の該当部分について把握し、理解することでの確に質問や議論をしてもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 教科書の中から自ら選んだテーマについてレジュメを作成する。発表者以外は、そのテーマについて該当する部分を読んでくる。 ④復習（60分） 論理の構造、レジュメの手順、関連知識を確認する。
11	①授業テーマ グループ発表準備 ②授業概要 グループに分かれてもらい、それぞれの領域と関心のあるテーマをみんなで話し合い決定します（E1・F1・G1・H1・B1・C1・K1・M1）。 ③予習（60分） 危機管理学部の4領域をについて確認し、どのようなテーマがあるのか考えてくる。 ④復習（60分） 各領域と社会との関係について確認する。
12	①授業テーマ グループワーク① ②授業概要 グループに分かれてもらい、それぞれの領域の考えてきたテーマに沿って、図書館で資料など調べ、グループ発表に向けて作業してもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 選択した領域のテーマでどのような文献や参考となる情報があるか調べておく。 ④復習（60分） 調べた内容がパワーポイントに反映されているか確認する。
13	①授業テーマ グループワーク②

	②授業概要 グループに分かれてもらい、それぞれの領域の考えてきたテーマに沿って、図書館で資料など調べ、グループ発表に向けて作業してもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 選択した領域のテーマでどのような文献や参考となる情報があるか調べておく。 ④復習（60分） 調べた内容がパワーポイントに反映されているか確認する。
14	①授業テーマ グループワーク③ ②授業概要 グループに分かれてもらい、それぞれの領域の考えてきたテーマに沿って、図書館で資料など調べ、グループ発表に向けて作業してもらいます（E1・F1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 選択した領域のテーマでどのような文献や参考となる情報があるか調べておく。 ④復習（60分） 調べた内容がパワーポイントに反映されているか確認する。
15	①授業テーマ グループ発表 ②授業概要 グループに分かれて作成したパワーポイントを用いて、プレゼンをしてもらいます（E1・F1・G1・H1・B1・K1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（60分） 発表に向けて、しっかりと質問に答えられるようにしておく。 ④復習（60分） 質問や指摘を受けて、作成したパワーポイントの内容を確認して修正しておく。
関連科目	ゼミナールⅠ（RMGT4601S/RMGT4601）
教科書	ナザレンコ・アンドリー『プーチンの戦争』（ワック、令和4年） ISBN 978-4898319598
参考書・参考URL	必要に応じて紹介する。
連絡先・オフィスアワー	開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%、パブリックセキュリティ25%、グローバルセキュリティ25%、情報セキュリティ30% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学30%、法学70%

